

令和 3 年 2 月

松田枝里子 学位論文審査要旨

主 査 片 岡 英 幸
副主査 藤 井 進 也
同 松 尾 聡

主論文

Clinical utility of qualitative elastography using acoustic radiation force impulse for differentiating benign from malignant salivary gland tumors

(唾液腺腫瘍の良悪性鑑別における音響放射圧を用いた定性組織弾性評価の臨床的有用性)

(著者：松田枝里子、福原隆宏、堂西亮平、平憲吉郎、小山哲史、森崎剛史、藤原和典、竹内裕美)

令和 3年 Ultrasound in Medicine & Biology 47巻 279頁～287頁

参考論文

1. Usefulness of ultrasound for assessing the primary tumor of hypopharyngeal carcinoma

(下咽頭癌の原発評価における超音波検査の有用性)

(著者：福原隆宏、松田枝里子、服部結子、堂西亮平、江原浩明、藤原和典、竹内裕美)

平成29年 Laryngoscope Investigative Otolaryngology 2巻 390頁～394頁

2. Usefulness of a novel ultrasonographic classification based on anechoic area patterns for differentiating Warthin tumors from pleomorphic adenomas of the parotid gland

(耳下腺腫瘍の多形腺腫とワルチン腫瘍の鑑別における超音波検査での無エコー域による分類法の有用性)

(著者：松田枝里子、福原隆宏、堂西亮平、河本勝之、廣岡保明、竹内裕美)

平成29年 Yonago Acta Medica 60巻 220頁～226頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、唾液腺腫瘍に対し、音響放射圧による新しいエラストグラフィであるARFIイメージングと、用手圧迫エラストグラフィを施行し、ARFIイメージングの良悪性鑑別における有用性について検討したものである。その結果、ARFIイメージングはデータの再現性に優れ、正診率も用手圧迫エラストグラフィに劣らないことが判明した。また、経過観察が可能なワルチン腫瘍と手術が必要な多形腺腫や悪性腫瘍との鑑別に優れ、唾液腺腫瘍の手術の要否の判断に有用な可能性が示唆された。本論文の内容は、唾液腺腫瘍の超音波診断の分野において、ARFIイメージングの有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。